

名医の手術をTV公開

外科医師ら70人技術学ぶ

豊橋ハートセンター

豊橋市大山町の豊橋ハートセンター(鈴木孝彦院長)で十三日、東海四県下の外科医師ら七十人が集まり、高度な心臓バイパス手術で実績を誇る名医らのテクニックを公開するライブデモンストレーションが行われた。

(星野のりこ)

同センターは二〇〇一年、同施設増設を機に約三千万円を投入し、光ファイバーで国内はもとより

外国の病院などと、リアルタイムで手術現場を双方向送信公開できる本格的なライブ設備を完備した。各分野の名医が優れた技術を惜しみなく公開、後進の育成を図り医療振興に役立てるのが目的。

年数回にわたり心疾患治療の第一人者、鈴木院長らが国内やローマ、アメリカなどの病院とライブデモを実施。大勢の医師たちの研修の場として多大な役割を果たしている。

これまででは内科的ライブが中心だったが、これからは外科的なバイパス手術のライブにも力を注ぐ。こちらのリーダーは、やはり国内第一人者の大川育秀・同センター副院長。

今回は大川副院長が中心となって企画。同氏と並ぶ実績を持つ名医二人が、実際のオペをテレビ



オペ現場映像を見ながら術者と会話する参加者ら
豊橋ハートセンターで

今回は大川副院長が中心となって企画。同氏と並ぶ実績を持つ名医二人が、実際のオペをテレビ

公開した。午前の部は、橋上哲哉・島根大教授がバイパス手術を、浅井徹・滋賀大教授、上田裕一・名古屋大教授が司会を務めた。午後の部は、浅井徹教授がメスを執り、島本光臣・静岡市立静岡病院教授、伊藤敏明・名古屋第一赤十字病院教授が司会を行った。

手術現場の模様は、院内ホールにセットされた二つのスクリーンにオンラインで放映され、参加者らは現場と同じ状況で見学。しかも会場から術者に質問などし、術者はそれに答えながらオペを進めた。二民のオペは、これまで主流の人工心肺(ポンプ)を使用せず、心臓を止めないで行うオフポンプ式。この方法は患者の負担が少なくリスクも低い反面、術者の高度な技術が必要とされる。参加医師らは術者に「オペの際の姿勢は「手と肘(ひじ)は固定しているか」など細かい点から、器具や薬剤、注意点を幅広く質問。術者はていねいに答え、機会がクニックやポイントなどを解説。憤、真剣な表情で画面を見つめメモを取っていた。

休憩時にはミニセミナーや、ライブ後はミニレクチャーもあり大川副院長が、これまでの症例などを紹介していた。